

## 祭礼に用いられる装束の実態 —殿賀花田植えの早乙女衣装を例に—

榎 崎 久美子\*

(2018年12月9日 受理)

### A Study of the Costumes of SAOTOME in the Agricultural Festival Tonoga Hanataue

Kumiko NARAZAKI\*

#### 1. はじめに

本研究は安芸太田町で行われている花田植えの早乙女が着用する衣装に関するものである。

筆者は神祇祭祀にかかわる装束の研究を専門としており、これまでに金光教における祭礼の服飾や春日大社の春日若宮御祭りにおける巫女の服飾などについてまとめてきた。

2018年の春、広島女学院大学国際教養学科で安芸太田町と連携し、日本の伝統文化について学ぶ活動があることを知り、著者は「殿賀花田植え」を見学させてもらった。広島県には世界無形文化遺産である「壬生の花田植え」というものがあり、そもそも花田植えとは太鼓をたたき、笛を鳴らして田植え歌を歌いながら大勢で田植えをするという民俗行事、民俗芸能として中国地方一帯で行われているものである。しかし、これまで筆者は触れる機会がなく、今回参加する中で大変興味深く拝見させていただいた。そこで、運営者や参加者の話を聞く中で、祭礼の担い手の減少や、装束の着付けが限られた人しかできないという現状を知り、地域住民が大切にしているこの行事がこのままではなくなってしまうのではないかと危機感を抱いた。「壬生の花田植え」のように世界的に注目される行事になってしまえばその存続はある程度期待できるが、花田植えという祭礼は農業を営む地域の中で当たり前にあったもので、だからこそそれぞれの地域性を多分に含む継承すべき行事であると考えられる。

このことから、花田植えの装束について着目し、本論ではまず実態を記録するという観点から、花田植えにつ

いての基本的な情報をまとめた上で、早乙女衣装について計測、観察を行い、祭礼を継続していくにあたり、装束の意義について考察を行う。

#### 2. 安芸太田町の花田植えとその運営の課題

本論で取り上げる安芸太田町の花田植えの実態調査を2018年5月20日（日）に行った。この行事は「第23回殿賀花田植&安芸太田病院まつり」の中で行われており、地域の伝承行事の継承を願い実施されている（図1）。

2018年度は10時30分に開会され、まず殿賀田楽が披露された。殿賀田楽は太鼓とササラを持った男性たちと早乙女が田植え歌に合わせて列になったり、円になったり



図1 2018年殿賀花田植えチラシ（2018年5月入手 なお、本学学生によるデザインである）

\* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科准教授

殿 賀 田 樂 唄

加計町指定無形民俗文化財 殿賀田楽保存会 S 56. 11

調子及び曲名	歌	詞	子の調の中				子の調			調		六		交換形変隊		子の調		音 (本菊) 鳴り			
			送り拍子	たすき	投拍子	とんぼ	内込み	笹の端入れ	逆菊	綾織	重菊	本菊 笠の付廻し	十文字投	本拍子	上(拍子) 拍子の付廻し	中(調子) 道中難	外廻し (長唄)		中(調子) 道中難	返り拍子	八文字
唄い初めます 神様 先ずさんばいの神様	歌	詞	なんと早乙女今日のしろは「よいとな」 撫ぎてが撫いたやら今日のしろは「よいとな」	十七、八の早乙女のかけたすき「きはよ」 きんらんどんすに綾のたすき「かけてよ」	口は白し目は黒し羽はれんげ「桃色」 先牛の角巻にとまる鳥は「何鳥」	さんばいの神様に御酒を上げ「ましよう」 長柄の銚子で御酒を上げ「ましよう」	さんばいの神様はどこの方から「まします」 あし毛の駒にのり宮の方から「まします」	忠臣蔵の四段目に「後から出て来る定九郎「ありや」 後から五段目と呼ばれるならどうせ命はないものよ「ありや」	忠臣蔵の五段目に「判官様の切腹よ「ありや」 りきや由良之助はまだ帰来なや「ありや」	忠臣蔵の六段目に「おかるが嫁入りするといな「ありや」 簞笥に長持ち買揃えておかるが嫁入りするといな「ありや」	笠の端は揃うたよ 「どこ笠が揃うた「ありや」 大坂三度京笠に山和笠が揃うた「ありや」	面白ものは富士のまきがりと「ありや」 弓に矢を揃えて富士のまきがりと「ありや」	婿殿の馳走に「何々が良いとな「ありや」 えびやら鯛やら五十両で買うたる金のお盃 やれ「ありや」	藤の柵に百合やらが咲いて見える「そくなよ」 藤やら百合やらが咲いて見える「そくなよ」	早乙女がヤーレかけたたるたすきのたれはよ「ありや」 三月でヤーレ下りした藤の花やれ「ありや」	天竺じ・連華花唐でぼたん「花やれ」 日本じ・桜花 これが花の「王やれ」	さんばいはこの方まで送るべし関山「関寺」 むろずみはむろが関遠山峠「まで」	エンヤラッの声がするあれは何の「声やれ」 えびす大黒さんの俵づみの「声やれ」	安芸の国の三段映に「どんな名所が「ござるか」 二段三段狼とび竜門三滝が「よいとな」	今日の早乙女は名残り惜しの「早乙女」 みあら川の上の根で文を書いて「参らしよう」	おんなりのはヤーレどこまで送るべし梶ヶ島に「ヤーレ」 おんなりのためにこそ囀るはひょうこ

図2 殿賀花田植田植唄 (2018年5月21日入手)

しながら舞い踊るものである。その時披露された田植え歌については以下の通りであった（図2）。

その後実際に田んぼに入り、太鼓と歌で調子をとりながら一列になって田植えを行っていた。早乙女以外にも地元住民が老いも若きも田んぼに入り、バランスを崩しながらも楽しそうに苗を植え付ける様子は地域のつながりや農業への敬意、自然との親和を感じ取ることができた。

殿賀田楽の担い手は、かつては地元の住人であったと思われるが、2015年には広島大学の学生が<sup>注1)</sup>、昨年には加計高校の生徒が参加したり本学の学生が参加させていただいたりなど地域や世代間交流の場としての機能がうかがえた。特に、過去には留学生だと思われる外国人も参加しており<sup>注2)</sup>、国際文化交流の場としての可能性も見受けられた(図3)。

しかし、運営に関しての問題点もあった。参加する地元の人々だけで行うのであれば祭りの前に何度か集まり、太鼓や舞の練習をすることもある程度容易であるが、当日しか参加できない来訪者にとっては当日に着付け、太鼓や舞の練習をし、すぐに本番というスケジュールでの参加となり、戸惑いが隠せない様子であった（図4）。単純な拍子、簡単な振りではあるものの、普段耳慣れない音楽、慣れない装束を身に着けることは今後の運



図3 外国人の早乙女（「一般社団法人 地域商社あきおおたFB」より引用 2018年11月入手）

営や継承の妨げになることが想定された。

特に早乙女装束は服飾小物が多く、一人で着用するには洋服を着慣れている若い世代には特に難しそうであるという印象を抱いた。着付けの現場にお伺いし、時間がない中で学生たちが着付けられている様子をうかがうと、早乙女経験者である地元婦人会の方々の記憶を頼りに行われている実態が明らかとなり、この点においても継承に関して情報を整理し、次世代に分かりやすい形で伝える工夫が必要であると思われる。





図4 練習の様子（2018年5月21日 著者撮影）

### 3. 早乙女衣装について

今回取り上げる早乙女の衣装は2018年の花田植えで用いられたものである（図5、図6）。構成、サイズについては田楽振興会から早乙女衣装一式をお借りし、計測を行った。以上をまとめたところ、表の通りである（表1、図7）。

注目すべきは田植えの際に泥はねなどを防ぐ裾除けである腰巻が手作りであったことである。赤色の裾除けは市販品でも手軽に購入することができるものであるが、浴衣の裾からちらりと見えるだけであるからか、手製であることが実態調査からわかった。

また、手覆いという手元の汚れを防ぐための服飾小物は、現在ではアームカバーと一体となったものが一般的で、手首から先だけ物がないからか、こちらも手製であった。

浴衣も手製であり、これは地域の祭礼を執り行うにあたり統一された装束を準備する必要があったからではないかといえるが、いつからこのような柄を使用することになったかについては今後の研究にて明らかにしたい。しかし、広島県山形郡北広島町の「壬生の花田植え」や、鳥根県雲南市掛合町の「入間花田植え」、鳥根県江津市川平町の「川平町花田植え」における装束の柄や花笠の装飾とも異なり<sup>注3)</sup>、併せて、殿賀田楽に用いられている浴衣の柄や花笠の装飾が今回取り上げたものとは異なるものがあることも分かっている（図8）。統一されていない理由としては、振興会の方のお話によると、その浴衣は別の地域で使われていたもので、そちらが花田植えをやめてしまったことから衣装をもらい受け活用しているとのことであった。つまり、装束の柄や花笠の装飾によって地域を表象していることが明らかとなり、さらに詳細な調査の必要性が感じられる。同時に、行事がなく



図5, 6 早乙女の装束（正面、背面）（2018年5月21日 著者撮影）

なってしまった場合装束がどのように扱われるかに関しても伝統行事の継承についての手掛かりが、また、他地域で祭礼を復興する際に今後どのように進めていくかの示唆が得られると考えられる。

### 4. まとめ

本論では安芸太田町で行われる花田植え（殿賀田楽）に着目し、その中で最も華やかな早乙女のまとう装束に着目し、その実態をまとめた。

浴衣の柄や花笠の装飾は地域に独特のものが見られ、地域性があることが明らかになった。また、構成される装束のうち、地域の方々の手製であろう装束が多く含まれ、制作や修繕の観点からも継承していくには工夫が必要であると考えられた。

祭礼を継続していくには人員や場所の確保が重要ではあるが、実際に遂行していく中で、先にも述べたように、伝統的装束の着付けや保管、手入れに関して通常の衣生活とは異なった知識や技術が必要になることがうかがえた。現在着付けや保管を担っている婦人会の方々の高齢化などが懸念され、打開策を講じることが急務であると考えられる。この点において、現在家庭科の学習指導要領の衣生活分野では「和装」に関する学びが盛り込まれており、こういった地域行事とリンクさせることによって生きた学びを得られるとともに、地域を担う次世代の育成、世代間交流、地域文化への理解などを進めることができると考えられる。こういった視点においても

表1 早乙女装束の構成と寸法（資料を基に著者作成）

資料 番号	名称	数量	色	サイズ	素材	備考
1	タスキ	1	えんじ	幅 9 cm	綿100%	・幅 51.5 cm の布を二つ折りにしてから三つ折り ・片端はみみ ・無地 ・手作りかどうか判別不明
				長さ 376 cm		
2	端りょう	2	薄いピンク	幅 24 cm	綿100%	・幅 24 cm の布を三つ折り ・片端はみみ ・手作りかどうか判別不明
				長さ 146 cm		
3	豆しほり	1	白地に赤と青の水玉	幅 8.4 cm	綿100%	・幅 32.5 cm の手ぬぐいを二つ折りにしてから更に二つ折り ・青が内側になるよう折りたたまれている ・手作りかどうか判別不明
				長さ 84 cm		
4	手覆い	左右1組	薄いピンク	図7参照	綿100%	・手作り ・左右の別があるかないか不明
5	腰巻	1	赤	幅 123.5 cm	ポリエステル100%か	・結びひものつけ位置は右が上から 18.5 cm, 左が 17.5 cm ・上下端がみみ, 左右は三つ折りミシン ・手作り
				丈 92 cm		
				結び紐 幅 8 mm ×長さ 39 cm		
6	前掛け	1	白	上幅 56.5 cm	ポリエステル65%	・既製品（裏の右端から 3.5 cm のところに幅 3.1 cm × 3.2 cm の縫い付けラベルあり） ・品質表示は組成以外に「液温40度で洗うのが良い」、「塩素系漂白剤の使用禁止」、「当て布をして低温でアイロンをかけるの絵表示」、「日本製」、「C-HG-1580」の記載あり ・下端のレースは幅 5 cm のトーションレース ・腰ひもの中心幅は 4.2 cm, つけ位置幅 4 cm, 中間幅 5.7 cm, 端幅 6.5 cm ・下端のレースとポケットのレースは同じもの ・ポケット幅 15 cm, 高さ 15.4 cm, 上端下り幅 2 cm, レース幅 4.3 cm, 大きさに左右 1 mm 程度の誤差あり, つけ位置は上端から 12 cm
				下幅 73 cm	綿35%	
				丈 53 cm		
7	帯	1	表：赤 裏：黄	幅 17 cm	ポリエステル100%か	・既製品（浴衣用）
				長さ 374 cm		
8	浴衣	1	白地に紺で注染	図7参照	綿100%	・流水に源氏車文様 ・経年劣化で肩と裾あたりの退色が激しい ・手縫い
9	花笠	1	薄茶色	高さ 25 cm	本体：い草	・頭頂部と縁近くに紫のラインが入っている ・花は頭頂部に緑が1つ, 縁にピンクが5つ配されている ・花は針金で止めてある ・内側に耳かけ用の赤い紐と, あごかけ用の白い紐がついている ・前後のふちに赤い紐が付いている
				横から見た幅 50 cm	花：プラスチック	
				縁の長さ 157 cm		
				花の直径 15 cm		
10	布草履	1組	赤, 紺, 白など再利用布由来の色	幅 10 cm	不明	・既製品か地域の方の手作りか判別しがたい ・かつては藁草履だったと考えられる
				長さ 23 cm		
11	苗	2	緑	長さ 30 cm	プラスチック	・苗が14本, または15本で1つ ・持ち手には園芸用テープが巻きつけてある ・長さをそろえるために先を切り落としている

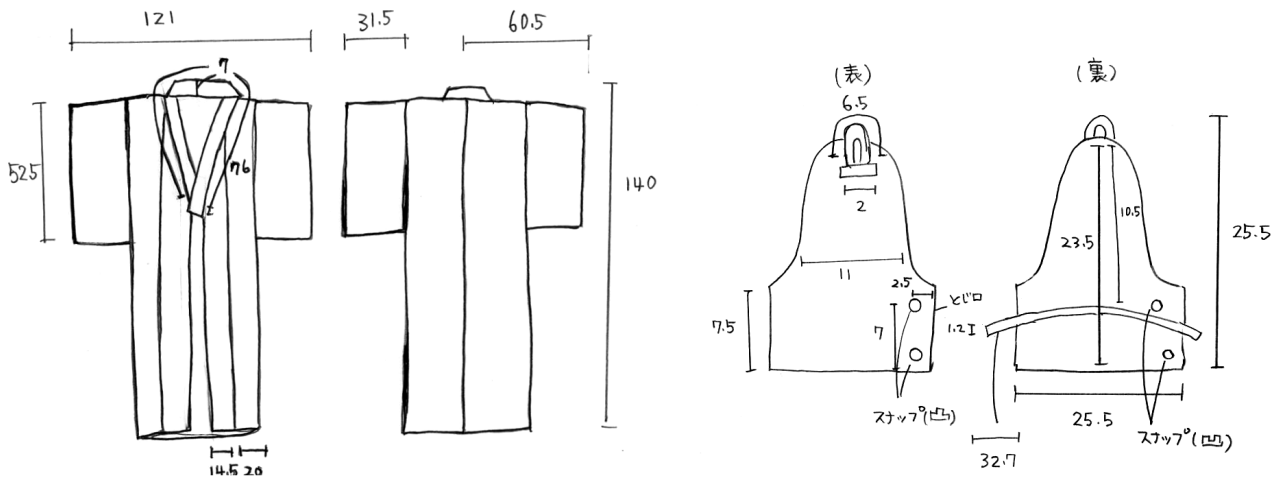


図7 浴衣および手覆い寸法 (cm) (資料を基に著者作成)



図8 柄の異なる浴衣の早乙女 (2018年5月21日 著者作成)

今後の研究を進めていきたいと考える。

#### 注

- 1) 平成27年6月に発行された「殿賀振興会だより〜とのが〜」によると、平成26年の殿賀田楽には広島大学の学生15名が早乙女として参加したことが記載してある。
- 2) 「一般社団法人 地域商社あきおたフェイスブック」の2016年5月12日の記事には早乙女衣装に身を包む外国人の写真が掲載されている。
- 3) 各地域の公式HP, FBを確認したところ、異なった装束の早乙女を確認することができる。この点については今後の研究において資料の整理、調査、分析を行いたい。